

平成28年11月24日

府中市長 高野 律 雄 様

府中市自然環境調査員会議
会 長 大 澤 邦 男

報告書

府中市自然環境調査員会議は平成24年12月に発足し、平成26年12月から第2期の活動が始まり2年が経過しました。この間、当会議は、第1期から引き続き自然環境の保全の推進を図るための様々な活動を行ってきました。

本市の自然環境の現状を把握するため、かつて府中市自然調査団がおこなった「府中市自然調査報告」を参考に調査方法を検討し、調査地点を「武蔵台公園」と定め、毎月1回、武蔵台公園における自然環境調査を実施しました。調査項目は、野草、樹木、鳥類、昆虫の4分類とし結果を積み上げてまいりました。この自然環境調査は今後も継続し、生物多様性の保全に繋がる取組みと考えております。

また、市民に自然環境の保全の大切さを啓発するため、市内各地において自然観察会等を実施いたしました。市民一人ひとりに府中の自然に触れてもらい、また再発見してもらえるよう努めました。

恒例の府中環境まつりにおいても、自然体験コーナーの運営に携わりました。また、身近な木の実や木の葉を使った緑化講習会によるリース作りの指導、蓮を観る会などへの協力等多くの幅広い活動を行ってきました。

その他、研修会や学習会へ参加し、委員の知識向上にも努めました。

このほど、第2期2年間の任期を満了するにあたり、その活動を通じた意見を依頼事項に沿って報告します。

記

自然環境の保全の推進を図るため、次の活動に取り組むこと

(I) 市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握に関すること

- ・崖線は湧水が無くとも、水量豊富で水捌けが良く、都市の緑の中でも貴重な自然豊かな緑地ですが、急激な温暖化で動植物が変化してきたようだ。短い期間の調査だけでは、結果はぼやけていますが、今後調査を継続することで、周期を含め多くのことが見えてくると思います。定点観測を続けることで市内全体のそれぞれの動向もつかめるのではないかと。教育の面からも、環境に対して何をすれば良いかが判断できる材料になると思う。継続の一言である。
- ・コゲラやヒヨドリの声を聴きながら、朝のさわやかな自然の中に身を置く喜びや環境の大切さを実感した。年間通じて自然の移り変わりを観察できるが、希少種の絞

り込みによる詳細な調査をして開花、花序数のおおまかな位置の調査を行ったことで、実際の生息状況などが把握でき今後の推移を見守っていきたいと考える。

- ・約2年間、野鳥班たまに昆虫班として主に活動を行ってきた。武蔵台公園の調査を通し、府中の自然について知識を深めることが出来ている。今後、この調査結果を市でどのように活用するかは分からないが、より精度と信憑性の高いものにしていく必要があると思う。特に昆虫の分類や同定には専門家の目があるとより心強いと思う。
- ・武蔵台公園での集中的調査は、一定の成果を上げていると思うが、ありていに言えば、それは市内の一部でしかない。しかし、その結果をベースに多摩川に至る市内各所の生物相を武蔵台公園と比べて、大雑把に把握できるのかどうか、検討してみてもどうか。
- ・四季を通し、武蔵台公園での毎月の観察で素晴らしい沢山の野草、樹木、鳥類、昆虫恵まれ、微力ながらも保護し観察したり色々な出会いが出来、楽しく調査できる事に感謝している。
- ・植物を担当したが、種類が多く、今の調査時間内では無理があると思う。いくつかのゾーンに分けて調査しても良いのではないか。
- ・開花結実した植物の種名を、また選定した15種の開花結実株数等を記録するという毎月の調査は地味で単調ですが、植物生息状況把握のためのデータの蓄積という意味で大事な作業だと思いながら続けてきた。個人的には、知識豊富な委員から色々教えていただいたことは、とても勉強になったし楽しかった。感謝します。
- ・同じように見えても草花の開花状況は毎年、少しずつ変わっていくようだ。今年はミツバツチグリ、フジカンゾウなどの開花株が減少した。
- ・武蔵台公園の昆虫の調査で、ただひたすら虫を探す事だけに徹している感じがあり、見つけても何かという事は中々難しいが、調査を続けてきたお陰で少しずつ名前が分かる虫も増えて来た様に思う。
- ・今年の4月に武蔵台公園のキンラン、ギンラン、ササバギンランの開花調査に参加したが、花序数が思ったより多く、調査しているのがすごく楽しく感じられた。このような状況を市民に公開し楽しんでもらえたらと思う。公開すると色々な問題が発生するとは思いますが、前向きに検討してもらいたい。
- ・4年間活動し、ようやく活動になれてきた。調査に関してはデータもまとまってきており、どのように利用するか市としての方針を明示して欲しい。それにより活動内が変わると考えられる。毎回、報告書作成の同定作業に苦勞している。資料の少ないことが原因だが、都度図書館に通うこともできず、今後の課題になる。
- ・今までの調査の集大成として、各々の動植物の生育環境を整え、どう保護・育成していくかが今後の課題。今まで調査していないアズマネザサ、雑草の繁茂している場所を調査したい。そのための数カ所の下草刈りを行い経過を見たい。新たな発見、

休眠している植物の再生が期待される。

(2) 自然環境の保全のための普及啓発に関すること

- ・バーチャルな世界で何でも見ることが出来るが、五感を感じさせることはできません。自然に触れあう時間と場所が必要不可欠である。季節の移り変わり、風、光、匂い等はその場に居なければ感じるこのできない経験である。季節毎にテーマを考えて自然観察会を行うことが良いのではないか。公園などで拾った実でリースを作ることや、葉や花を採取し、布や紙に染めたりすることは、名前をただ覚えるだけよりインパクトが強く残り、老若男女を問わず参加する価値も出てくる。新しい取組を作りあげることで、少ない参加者でも充実したイベントの日を過ごせると良いのではないか。
- ・木の実細工の講習会は年間を通じて、府中環境まつりでの子供向けのドングリを使った簡単な置物の作成の講習、11月にはリース作りを行った。参加者からの感想として、リース作りは年に1度だけなのか、他場所での講習はないのか、楽しく出来たので年間2回くらいはやって欲しいとの意見があった。
- ・イベントはどうしても土日祝日に行われる場合が多いため、仕事との折り合いがつかず、出席できないことが多々あり、大変申し訳ありません。日程が確定するのがもっと早いと参加しやすいが、他の皆さんの事情を考えるとそうもいかないと思うし、本当に心苦しい限りです。「自然環境の保全のための普及啓発」であるならば、もっと若い世代、子育て世代や若者、子どもたちをターゲットにしたイベントや活動があってもいいのではと思う。
- ・人々の自然に対する関心、知識は個々にはかなり高まって来ていると思われるが、保全という事になると動きは少ない。そこが今後の課題ではないだろうか。現在行っている啓発活動は今後も続けた方が良いと思うが、保全的要素（具体的行動）を組み込めれば、更に有意義なものになると思う。
- ・色々なイベントに参加し、触れることが出来、またそれを少しでも多くの方に指導し、自分も楽しく作品を作ったり、また、出来あがりに感動し、皆様に喜んでいただけることが出来、嬉しく思っている。
- ・環境まつり、緑化講習会については、今の委員数（女性）では無理があると思う。（全員出席できれば良いが。）
- ・自然の素材を使って遊ぶ・作る、自然のあるがままを観察する、自然を暮らしの中に取り入れる等々、調査員会議のイベントとはこういうものと思っている。これらイベントを通じて自然の恵みの豊かさ、自然と人との深い関わりを感じることが出来れば、何時の日か自然との付き合い方をもっと考えるようになるのでは、と思った。
- ・多摩川の草花観察会は毎年1回5月に実施したら良いと思う。

- ・ 巣箱作りは準備が大変だとは思いますが、市民の皆様が作った巣箱をかけて、沢山の鳥が卵を産み育て巣立っていけば、自然環境の保全の一環になると思う。
- ・ ツバメの集団ねぐらとなっていた四谷橋下流域四谷小学校前河川敷のヨシ原の環境が悪く、恒例となっていた市民観察会が2年連続で実施されなくなった。府中の風物詩の回復とレンリソウ自生地保全によりカワラナデシコ、ワレモコウ、ノカンゾウなど、草原性の植物が自生している。この地の観察会や市民へのPR活動などが必要だと思う。
- ・ ①府中環境まつりでの、環境破壊とも思える劣悪な環境を一新してほしい、事務局へ要望する。②近隣地域との連携（交流）、情報がほとんどないこと、特に同様な調査を行っている東京都の方針や環境調査などの現状が聞こえてこないなど、事務局である市の対応を要望する。
- ・ 大人中心のイベントが多いと思われる。将来を託す子どもたちを対象としたイベントを組めないか。また、親子で自然の中で自然と親しみながら行う観察会や緑化講習会を通して環境保全を啓発したらどうか。

以上